

病院を核としたまちづくり推進特別委員長報告

病院を核としたまちづくり推進特別委員会における、これまでの調査並びに審査の経過についてご報告申し上げます。

昨年七月の委員会設置以来、県立医科大学附属病院の周辺整備に関する事、新奈良県総合医療センター等の周辺整備に関する事について、県内の実情を含め、各般にわたり調査並びに審査を行ってまいりました。

まず、初度委員会においては、県立医科大学附属病院、新奈良県総合医療センター、及び奈良県総合医療センター跡地を中心としたまちづくりにおける整備の進め方や課題などについて共通認識を持つとともに、住民参加によるまちづくりを進められたいとの要望がありました。

さらに、奈良県総合医療センター跡地のまちづくりに関するアンケートの調査結果に対する対応など議論が交わされました。

また、県内調査として、新奈良県総合医療センターの建設予定地や、近鉄西ノ京駅から新奈良県総合医療センターへのアクセス道路、さらに西側からのアクセス道路となる県道枚方大和郡山線及び城廻り線についての調査を行ったところです。

次に、九月定例会においては、住民が自らの課題として、受け止め易くするため、まちづくり協議会に分科会などをつくられたいとの要望がありました。

さらに、奈良県立医科大学附属病院、新奈良県総合医療センター及び奈良県総合医療センター跡地を核としたまちづくりのイメージや整

備のスケジュール、整備の手法及び、奈良市・大和郡山市・橿原市との協議などに関し、議論が交わされました。

次に、十二月定例会においては、地域包括ケアシステムの構築のためには、多職種の方々や奈良市・橿原市との連携と、住民が自主的にかわっていくことのできる環境づくりが重要であるとして、互いに協力し合ってシステムの構築を進められたいとの要望がありました。

また、地域全体の包括ケアシステムについて、様々な提案をしていく地域包括支援センターでは、保健師の果たす役割が非常に大きいため、その機能を強化されたいとの要望がありました。

さらに、県立医科大学周辺のまちづくりに関する調整会議の報告内容に関する議論や在宅介護に関する議論が交わされました。

次に、二月定例会においては、提出予定議案として来年度当初予算案の説明を受け、さらに、地域包括ケアシステムの推進や新奈良県総合医療センターの整備についてのほか、県立医科大学周辺整備の進捗状況、地域包括支援センターの人材養成などについての質疑が行われました。

今後のまちづくりにおいては、住民の意見も反映させて、全国のモデルとなるよう取り組まれないとの要望がありました。

また、地域包括支援センターについては、好事例を参考に、センターの取り組みに対する助言や職員に対する指導などされたいとの要望もありました。

さらに、医師、看護師、介護分野における人材の確保や近鉄新駅の設置に向けた協議の進捗状況、総合医の育成など、各般にわたり活発な議論が交わされました。

以上のような経緯を踏まえ、以下、三点について、さらに要望する
ものがあります。

一 県立医科大学の教育・研究部門及び奈良県総合医療センターの移
転に関しては、地元住民や関係市町村などと十分な協議を行ったう
えで、まちづくりの整備に努められたいこと。

一 今後の高齢社会を見据えた健康長寿のまちづくりに向けて、医療
と介護の連携による、地域包括ケアシステムの構築に努められたい
こと。

一 アクセス道路及び公共交通機関の整備を行うことにより、渋滞対
策、安全対策、利便性の確保に努められたいこと。

なお、今後も、県立医科大学附属病院の周辺整備に関すること、新
奈良県総合医療センター等の周辺整備に関することについて、引き続
き慎重に審議を行ってまいりたいと考えております。

以上、申し上げて中間報告といたします。